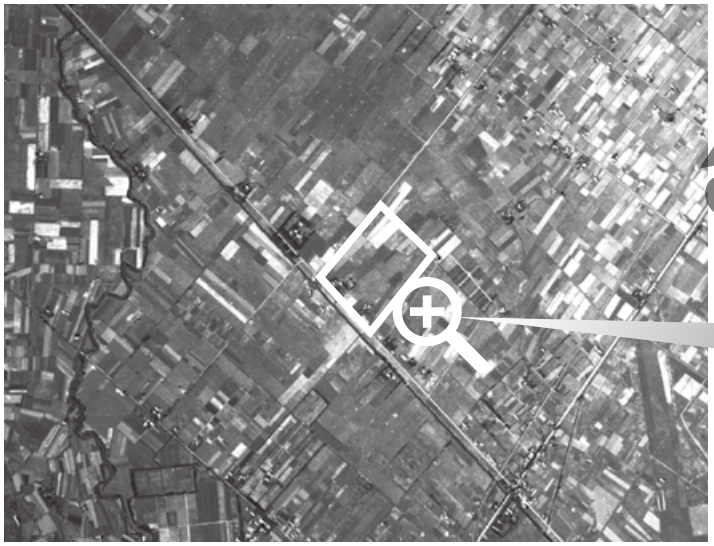
50th Anniversary

# あゆみ50

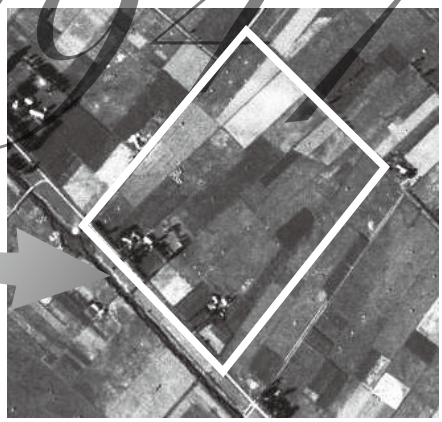
創立50周年記念誌

50th ANNIVERSARY 1970-2020

50th Anniversary

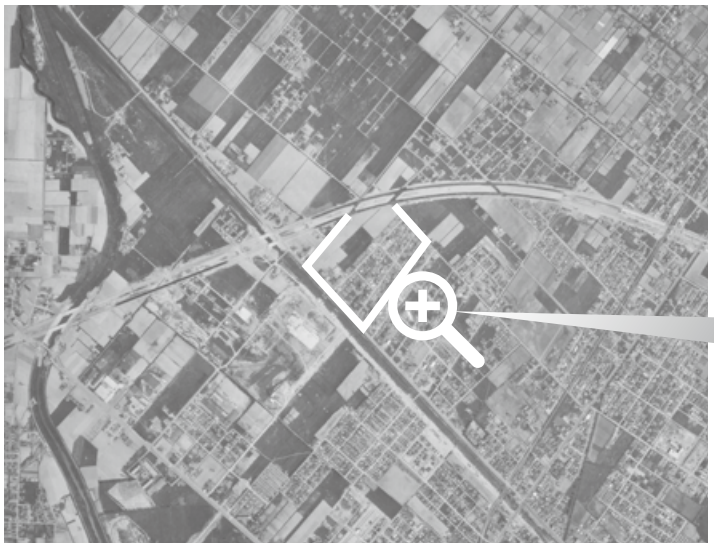


1947



▲第七町内会と思われる地域

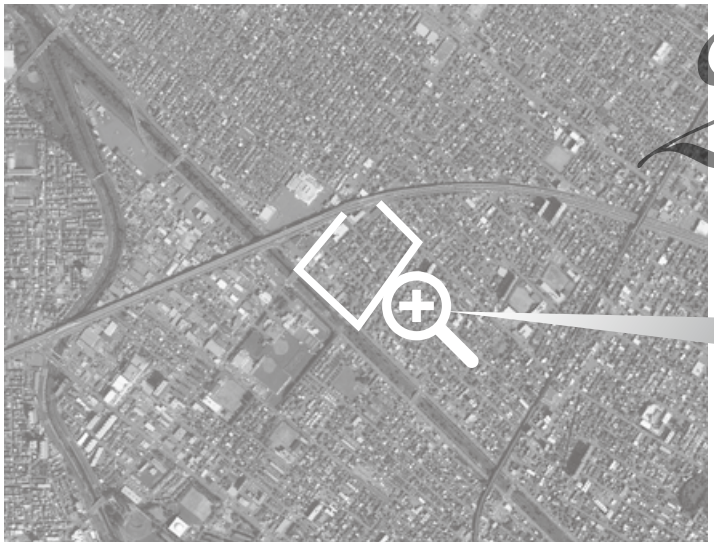
▲1947年（昭和22年）の新川周辺の航空写真（出典:国土地理院ウェブサイト）



1971

▲第七町内会の地域

▲1971年（昭和46年）町内会創立翌年の新川周辺の航空写真（出典:国土地理院ウェブサイト）



2020

▲第七町内会の地域

▲2020年（令和2年）町内会創立50年目の新川周辺の航空写真（出典:国土地理院ウェブサイト）

# 目　次


挨　　拶　　町内会長 …… P 2
札幌市北区長 …… P 3
連合町内会長 …… P 4
坂田顧問 …… P 5
山田顧問 …… P 6
副会長 …… P 7
渥美顧問追悼文 …… P 8
新川地区と新川中央第七町内会の歩み …… P 9
年　表 …… P10
新川地区と第七町内会のあゆみ …… P14
最長居住者インタビュー …… P23
年間行事ピックアップ …… P24
第七町内会創立50周年記念事業 …… P29
第七町内会の主な事業と各部の活動 …… P30
定例役員会・常任役員会 …… P31
総務部 …… P31
防犯防災部 …… P32
交通部 …… P32
環境衛生部 …… P33
文教部 …… P33
福祉部 …… P34
広報部 …… P34
体育部 …… P35
女性部 …… P35
歴代常任役員名簿 …… P36
会　　則 …… P42
編集後記 …… P46

# 新川中央第七町内会創立50周年記念誌「あゆみ50」の発刊にあたって

新川中央第七町内会
会長　坂田　康弘

昭和45年（1970年）に創立された新川中央第七町内会は、令和２年（2020年）に50周年を迎えました。しかし、令和２年に新型コロナウイルス感染症（COVID-19）による感染者が確認されました。その後、感染者数が増加したため、感染リスクを低減するためには三密（密閉・密集・密接）を避ける行動が推奨されております。このことを受けまして、町内会員の皆様とともに50周年を盛大にお祝いすること断念することと致しました。50周年の記念事業が１年遅れとはなりましたが、ここに町内会創立50周年記念誌「あゆみ50」の発刊に至りましたことにご協力・ご尽力いただきました皆様に感謝申し上げます。

町内会創立記念誌は、これまで創立20周年記念誌「あゆみ」、創立30周年記念誌「あゆみ30」、創立40周年記念誌「あゆみ40」が、10年ごとに発刊されてまいりました。今回の「あゆみ50」では、これまでの記念誌に掲載されていた基幹となる部分に直近10年間の当町内会を中心とした歩みを加筆して作成いたしました。町内会創立以降、50年という歴史を積み重ねてこられたのは、町内会運営を担ってこられた歴代の会長をはじめとする役員の皆様のご尽力と会員の皆様のご協力の賜物と、あらためて敬意を表すとともに感謝を申し上げます。

さて、当町内会では創立10周年以降40周年まで５年ごとに、会員の皆様のボランティア、資材提供、寄付金などにより夏祭りや秋祭り、第七町内会館の建設、増築などの記念事業が盛大に行われてまいりました。しかし、少子高齢化が進むとともに町内会役員の担い手不足や地域を取り巻く経済情勢も厳しさを増してきていることから、これまで行われてきたような盛大な記念事業の遂行は難しい状況にあります。今回の50周年記念事業につきましては、会員の方から寄せられたゴミステーションに関するご意見などを役員で協議した結果、現在利用されているゴミステーションを他の町内会でも導入が進んでいる折りたたみ式の箱型ゴミステーションに更新し、ゴミステーション周りの環境を良くすることと決定いたしました。

今後も当記念誌に掲載されている町内会独自の様々な事業が継続され、これまで同様の住み良い町内会であり続けることができるよう、役員一同尽力してまいる所存でございます。

最後に、町内会活動にご協力・ご支援をいただいております役員及び会員の皆様に心より感謝を申し上げますと共に、新川中央第七町内会の益々の発展と関係各位のご健勝とご多幸をご祈念申し上げ、当記念誌「あゆみ50」発刊のご挨拶といたします。

# 新川中央第七町内会<br>創立50周年を祝して

札幌市北区長
見上　雄一

このたび、新川中央第七町内会が創立50周年をむかえられましたことを、心からお祝い申し上げますとともに、長年にわたる地域の皆様方の貴重な足跡を記した記念誌「あゆみ50」が発行の運びとなりましたことを、重ねてお慶び申し上げます。

これも、ひとえに貴町内会の皆様が、新川地区の発展を目指し、地域の絆を大切にされ、地域にねざした活発な活動や運営を続けられていることによるものであり、皆様のご尽力に心から敬意を表します。

新川地区は屯田兵の開拓の鍬が下ろされて以来、先人たちの苦労の中で切りひらかれた地で、札幌市の中でも長い歴史を持つ地域であります。平成12年には、地域のシンボルとなっている「新川さくら並木」が完成し、現在もこれを記念して、子どもから高齢者までの多くの方が参加される行事が活発に行われております。

このような地域に根ざした積極的な活動は、まちづくりを進めていく上で、欠くことのできないものであります。

札幌市は、2022年には市制施行百周年という大きな節目を迎える一方で、今後は人口減少・超高齢社会という時代の転換期にも直面します。

そうした時代であるからこそ、誰もが安心して暮らし、世代を超えていきいきと輝ける街を目指していきます。

北区といたしましても、区民の皆様に、北区に住んでいてよかったと思っていただけるようなまちづくりに、皆様と共に全力で取り組んで参りたいと考えておりますので、引き続きご協力をお願い申し上げます。

結びになりますが、新川中央第七町内会が、このたびの創立50周年を契機として、一層の飛躍をとげられますよう、併せて、地域の皆様のご繁栄をご祈念申し上げまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

# 新川中央第七町内会<br>創立50周年記念誌によせて

新川さくら並木連合町内会
会長　佐久間　五十也

新川中央第七町内会創立50周年並びに記念誌のご発刊、誠におめでとうございます。貴町内会の皆様には、日頃より当連合町内会に対しご理解とご協力をいただき厚くお礼申し上げます。昭和45年に創立され50年という長きにわたり、地域の安全・安心の確保、地域福祉の向上、生活環境の維持改善など様々な地域活動に取り組まれてきたことにつきまして、深く敬意を表します。

一言に50周年と申しましても、その長い年月の間には様々な出来事がありました。戦後の混乱から目まぐるしい速さで復興した日本、そして国全体が豊かになりインフラが整備され、人が集まり私たちが住む新川地区もあっという間に都市化が進みました。しかしたびたび災害にも見舞われ、そのスピードが緩やかになることもありました。それでも人は前へ進むものです。一人ではできないことも声をあげ、集まって知恵を出し合い一歩ずつ前進する。住民組織の底力を発揮して今日の日を迎えたのではないでしょうか。

貴町内会も例外ではなく、住民の誰もがいきいきと心豊かに安心して日々を送れるような住民主体のまちづくりをこれまでも、そしてこれからも続けていくことと思います。自力で児童公園を造成したり、廃バスを改造した集会所、のちに町内会館を建設するなど地域に多数の優秀な人材を有する貴町内会ならではのアイディアと行動力で地域を豊かにし、声をあげあきらめずに交渉し、行動することで新川地区全体も豊かになりました。その象徴ともいえるものが、新川さくら並木ではないでしょうか。今では毎年春になると札幌の桜の名所として各種メディアでも紹介されるさくら並木の美しさは地域住民のみならず新川を訪れる人々の心を和ませるシンボルとなっております。

しかしながら、年々少子高齢化が進み、町内会を取りまく環境も大きな転換期を迎え、令和に入りこの一年は新型コロナウイルスという見えない敵との戦いに町内会活動がその歩みを止めざるを得ない状況となっております。まさに個の時代となりつつありますが、このような時だからこそ個々を大切にしながらも、より一層力を併せて福祉の向上や安心安全なまちづくりに力を注ぐ必要があります。

新川さくら並木連合町内会といたしましても、単位町内会の活動に足りない部分を補完しあい、町内会の活性化を目指してより良い状態で次世代に引き継ぐため活動してまいります。貴町内会におかれましても、この創立50周年記念誌に記された輝かしい歴史と伝統に、新たな充実発展の歴史を加えるべくまちづくりのパートナーとして活躍し続けていただくことを祈念し、お祝いの言葉といたします。

# 新川中央第七町内会 創立50周年記念によせて

新川中央第七町内会
顧問　坂田　好男（第５代　会長）

新川中央第七町内会の創立50周年と着実な歩みを綴った記念誌「あゆみ50」の発行を皆様と共に心からお慶び申し上げます。

50年の長きにわたり幾多の障害を乗り越えながら、初代山田豊会長をはじめ大江、松本、渥美、坂田（好）、伊藤、山田（進）、大山、坂田（康）各歴代会長の皆さんと、それを支えた歴代各役員の活躍に加え、地域住民のたゆまぬご協力とご努力のおかげで素晴らしい町内会が出来上がって今日に至っておりますことは、ご同慶の至りと感謝申し上げる次第であります。

私こと第５代目の町内会長（昭和56年）に選ばれ、平成13年までの20年間、会長を務めさせて頂き、その間図らずも創立20周年「あゆみ」、30周年記念誌「あゆみ30」を発刊し、25周年記念事業として第七町内会館建設、更には新川連合町内会理事、副会長、会長として、この間、平成元年には新川開基100年記念事業、新川地区会館建設、新川中央児童会館建設、西中学校、国際情報高等学校、JR学園都市線高架事業、新川通り拡幅、平成12年すなわち2000年完成を目指した若木755本、新川7.5キロメートル、手稲区３キロメートルをあわせて新川沿いに10.5キロメートルの日本一長い桜並木が完成等々、以上諸事業の達成が出来たのも、地域住民の皆さまがご理解され、「物心両面」に多大なるご芳志を賜りまして今日に至りましたことは感謝の言葉もありません。

今後とも、わが第七町内会が役員・会員の一致協同の心で次世代に誇りをもって引き継げる町内会として、無限の発展を遂げられるようご期待申し上げ、大きな節目にあたっての創立50周年記念誌「あゆみ50」の発刊をお祝い申し上げ、次の世代へ向けて100年と永遠に語り継がれ、益々発展を続けられることを祈念し、町内会員の皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げ、お祝いの言葉と致します。